

平成 29 年度 第1回西蒲区教育ミーティング 会議録概要

開催日時	平成29年7月31日(木) 午後1時30分から午後3時まで
会 場	巻地区公民館 3階 小ホール
出席者	西蒲区自治協議会委員 26名 教育委員:伊藤教育委員、田中教育委員 事務局:教育長、教育総務課長、地域教育推進課長、学校支援課長補佐、巻地区公民館長、西川図書館長、西蒲区教育支援センター所長、他1名 傍聴者:1名
議 事	1 開会 2 教育委員挨拶(伊藤教育委員、田中教育委員) 3 平成 29 年度教育委員会の施策について(教育長) 4 意見交換(司会 西蒲区教育支援センター所長) 主な視点 ・地域で子どもを育てるために、地域と学校の関わりからみえてきた現状、今後必要と考える取組 ・より良い地域づくりのために、地域の皆さんと、公民館などの社会教育施設や学校とが協働してできることは
自治協委員	新潟県が毎年行っている「わたしの主張地区大会」は、県内 13 地区の中で新潟市地区の参加率が最も低く 27 パーセントとなっています。県児童家庭課によるまとめでは、100 パーセントが 10 地区、85 パーセントが1地区、74 パーセントが1地区、平均 77 パーセントの参加率です。 取り組みは学校の裁量にあるのかもしれませんが、新潟市の 27 パーセントというのはあまりにも低いのではないかという感じがします。 岩室地域では、小中学校の児童生徒を心身ともに健やかに育てようと、「少年の主張発表会」を長年実施しており、今年で 36 年目を迎えます。この発表会は、子どもたちの成長段階において社会のさまざまなことを学ぶもので、豊かな人間性と想像力を身に付けて将来の人間形成に大きく役立っているものと思っております。 この「わたしの主張発表会」並びに岩室の「少年の主張発表会」等について、教育委員会としての考えを伺いたい。また、市内各学校に対しては、趣旨の理解と取り組みの指導にも努める必要があるのではないかと思いますので、併せてお考えをお聞かせいただきたい。
教育委員会 事務局	ご指摘いただいたように、残念ながら新潟市は3割弱の参加校ということで、まだまだ十分でないところがございます。私たちも、そのままよいとは思っておりません。経験、体験を事前に前年度から作文として出せるようにしたり、あるいは校長会で説明し協力をいただいたりというようなことを、今現在繰り返しているところです。 また今年度からは、地域ごとに推薦があれば、地域の推薦の作品も一緒にその大会に出られるようにということで進めているところです。
自治協委員	岩室地域の少年の発表会ではありますが、子どもたちの思いは素晴らしいものがあ

ります。昨年の発表の中から3点ほど紹介いたしますと「世の中に困っている人がたくさんいる。弁護士になって、困っている人、苦しんでいる人、辛い毎日を送っている人たちを笑顔にしたい。」と語ってくれました。今一つは「小学校に入ったとき仲が良かった友だちにいじめられ、悔しさと一人ぼっちな悲しさなど、いじめの辛さや怖さを多くの人に知ってもらいたい。」と思いついて体験を発表しました。それから3点目は「熊本地震で学生がボランティアに参加している姿を見て、積極的に奉仕活動に参加し、困っている人の役に立ちたい。」そういう思いを語ってくれました。非常に発表会の参加者、多くの人が感動しておりました。

この「わたしの主張発表会」への参加につきましては、本日の意見交換にある主な視点にかかる大切な取り組みであると考えます。市の教育ビジョンである学・社・民の融合による教育にもつながるのではないかと考えております。

また、考える力、生きる力を身に付け、道徳教育の観点からも大切なことではないかと考えております。学・社・民が形式的にならないように、教育委員会等に積極的な取り組みをしていただきたいということをお願いしたいと思っております。

教育委員会
事務局
教育委員

貴重なご意見、ありがとうございます。これからも、より一層多くの子どもたち、多くの学校から参加していただけるように取り組みたいと思っております。

社会教育委員をしていたとき、少年の主張の審査員として、子どもたちの発表を聞いたことがあります。大切なのは何を伝えるかということと、それからどう伝えるかということ。学校によっては、発表のスタイルで印象を与えるようなこともあるようでした。でも、私が印象に残ったのは、どういうことを主張したかということす。

ウェルカム参観日で岩室中学校に行く予定ですが、岩室中学校の生徒の今年度の主張がどのようなものなのか、期待しながら伺いたいと思っております。

地域の方々にも関心をもっていただき、中学生の力を借りて活性化するということ、いい刺激をもらう機会であると思っております。そして、後輩たちも、憧れをもって、「僕も」「私も」とつながるようにと期待しております。

自治協委員

社会福祉協議会では、障がいのある方や高齢者の方が、日ごろから生きがいをもって楽しく過ごしているということ、学校でいかに伝えていくかを考えながら取り組んでいます。

先日、ある小学校で、障がい者の方をゲストティーチャーにお招きしてお話を聞く活動がありました。その中で、ある障がい者の方が「自分がまちに出掛けたときに、ある人から『大変ですね、お困りごとはありますか？』と声をかけられた。」そうです。本人は特に困っていないのに「すごく尊厳を傷つけられた。」という話をされました。今までの福祉教育で、そういった部分を植えつけてしまったのかなど、反省する部分もあるわけです。

そこで、地域の高齢者からお話を聞くとき、その方から「80年生きて中でどういう仕事をして、どういう思いで家族を守り、どのように地域に貢献していただいたか。」ということをお話していただきました。子どもたちからは、「いろいろな経験をして80年過ごしてきた、とても素晴らしい方だ。」という感想をいただくことができました。相手の尊厳を大事にし、接することを学ぶ機会だったと思っております。

子どもたちは地域の宝で、次世代の担い手です。子どもたちには、一人一人みんな違うということ、そして違うがゆえに一人一人が尊重されなければならない、違うことは素晴らしいということを知っていただきたい。

いじめ問題の解決や、地域がさらに元気になって、西蒲区の地域福祉向上に資するのではないかと思います。

福祉教育を進めたいのですが、学校によっては「忙しい。」とご理解いただけないこともあります。教育委員会からも、福祉教育の推進という部分でご協力をいただけないかというお願いです。

教育委員会
事務局

まさに、委員のご指摘の通りだと思って聞いておりました。今、いじめ問題の相談をたくさん受けます。学校との話し合いも進めております。それは、人の尊厳とか、人をどう見るかという根本にかかわってきます。実際に人と会ってお話を聞くなどの体験をとおして学ぶことが大切です。大事な福祉の視点からお話いただきました。学校にもその大切さを訴えていきたいと思っております。

自治協委員

教育というのは、学校だけではないですよ。学校、PTA、地域、これが三者一体になってやっていかなければならない。だけど、私が過ごした時代に比べると、ギクシャクしているような気がします。

この前、角田山に登りました。観音堂のところに 10 人くらいの方々がおられました。どなたか分かりません。私の孫みたいな若い方々です。話を聞いていると、学校の先生や部活動の批判とか、いろいろなことを言っていました。なぜ、そういうことを学校に申し入れないのだろうか。

学校と地域とPTAとの連携、あるいは協働する場合、一番の問題になっていることは何でしょうか。そして、もっとも大切なことは何でしょうか。

それから二つめ。今、スマートフォンやパソコンなど、びっくりするくらい進歩しています。隣り同士でありながら会話をしないでメールでいじめをしているなど、実態は、学校でもつかみきれないと思うのです。このパソコンやスマートフォンなどを通じての生徒指導上の問題、どう考えていらっしゃいますか。

教育委員会
事務局

例えば、学校と保護者など、立場の違う方々の間で食い違いが生じたりすることがあることは耳にします。自分の考えを立場の違う相手に伝えることが苦手になってきている気がします。

「学・社・民の融合による教育」は、学校、社会教育施設、そして地域の皆さんが一体となって子どもを育みましょうということです。保護者の皆さんは地域の中に含まれると思いますが、この学・社・民の融合による教育を進めるためには、それぞれの考え方、立場、文化、生き方、それぞれの考えを合わせていって、どう子どもたちを育てようかというところにはいかなければ達成できないと思っています。

今日のテーマの重要な点だと思いますし、これからも一緒に考えていきたいと思っています。

自治協委員

巻北小学校区です。「朝の見回り隊」であいさつ運動をやっています。いつも子どもたちはあいさつしてくれます。

ところが、4月に登校時の殺人事件(千葉県)があつてから、子どもたちが私ども

を不審な目で見るとのことです。そのことをすぐ学校に連絡し、学校もすぐに対応してくれました。その後は、子どもたちはそのような見方をしなくなりました。学校との連絡調整、意見交換をとおして、学校が適切に対応してくれて、子どもの不審感もなくなり、いつもの見回り隊の活動に戻りました。私ども三十何人かいるのですが、みなさん、非常に喜んでおります。今後も、そのような学校と地域との付き合いをさせてもらいたいと思っています。

自治協委員

学校の先の話を見せてもらいます。私は農業をやっています。毎年、専門学校卒や高卒の子どもたちを三、四人採用します。なぜ、毎年三人も四人も雇うのかとよく言われます。非常に定着率が悪いのです。見当違いの職場だったとか、あるいは人との付き合い方を知らなかったとか、いろいろな問題が出てきて定着率が悪いのです。丁寧に話をしますが、結局、自分のことをよく表現できない子が非常に多いのですね。

小学校に関係する方々は、「子どもたちがみんな元気で卒業してよかったね。ほっとしたね。」で終わってるのだと思うのです。中学校を担当する方々は、「うちの中学校、今年は問題がなくてよかったね。」で終わっているかと。高校でも、多分同じことなのだろうと。

ではその先、子どもたちが世の中に出たときにどうするのかと、本当に考えて教育してくれているのかなど。この辺が非常に疑問なのです。いろいろな行事に参加する子どもたちは、多分どこに出てもきちんと生きていける子どもたちなのだろうと思うのです。そうではない子どもたちが多いのです。

もう一つ感じるのは、いろいろな特性を持っている子が最近多くなっていることです。頭の回転はいいのだけれども、計算能力は弱いとか、人と話をするのは得意なのだけれども、自分のことを表現することが不得意とか、そういう子が多い気がします。教育現場の中で、そういった特性を見抜いて、きちんとカバーしてやる必要があるのだろうと思うのです。

例えば、小学校6年なら、6年生がうまいければいいということではなくて、その子が社会人になったときにどう生きていくのかに視点を置いてやっていただきたい。多分、小学校の教育が一番ベースになるのだろうと思います。そこで何を学ぶか、どのような教え方をされたか。これは、学校だけではなくて家庭もそうですけど、その辺をきちんとやっていただきたい。

特に最近、世の中に出た途端に、働いてお金をもらえ、自由なことができるようになった途端に挫折してしまう。親も含めて話をし、説得しても辞めていくのです。多分、自分の弱い部分をどうカバーしたらいいのかを、ほとんど教えられていないと思うのです。その辺、一つ、よろしくお願いします。

司 会

ありがとうございました。とても大きなテーマをご提示いただきました。それだけで、すごい議論になると思いますが、この場で、具体的な結論へたどり着くのは難しいかと思います。ただ、まずは、地域で育て、地域で大人になっていく子どもたちを、学校、地域、社会教育施設などが、それぞれの立場で、どう育てていくのか、どう連携を深めていくか、その可能性をともに探っていくこと大切だと考えます。

教育委員会
事務局

SNS、ネット、メール等でのトラブルが増えているのは事実です。情報の適切な扱い方の指導や定期的にアンケートを実施し、子どもたちの変化をすくいあげようとしています。一方で、問題の未然防止・早期発見という取組もしています。さらに、いじめは人の尊厳を損なうものだという、そういう根本的な指導を各学校でやっています。問題が起こってからその解決もそうですが、人としての尊厳を尊重することを各学校で取り組んでいます。

道徳などで話し合ったり、特別活動で、みんなとともに活動することの楽しさを感じるなど、人と人が直接かかわることを大事にする取組も増えています。

将来にわたり、見方や考え方、人とのふれあい方というものを学ばせようと、取り組んでいるところです。

自治協委員

「ご用のある方は、インターホンで教務室に」などと、学校のガードが強くなりました。犯罪が起きてはいけませんが、開かれた学校という観点に立つと、委員のみなさんの意見のとおり、そこに帰結すると思います。気楽に学校に行き、担任や管理職の話聞く。おじいちゃんもおばあちゃんも。昔はあったと思います。

自治協委員

昨年度の全国学力調査の結果、新潟県では小6が全国10位程度、中学校が20位程度で、そういう傾向が長年見られると。新潟市については、県とほぼ同様な状況で、小6は全国の10位以内に入っているけれど、中学校になると若干順位が下がっていく傾向が続いているようです。

教員の残業の実態ですが、中学校になると部活があり、授業のほかには部活の対応などが含まれて、超過的な勤務の状況が生まれていると考えます。

そこで、新潟市の現在の小中学校の先生方の勤務実態は、全国と比較してどうなのか。また、中学校の学力調査結果が小学校時代よりも下がってしまうという現状が続く中で、中学校の先生方の勤務実態と学力調査結果、どういった因果関係があるのかをお尋ねしたいと思います。

教育委員会
事務局

新潟市の先生も、全国の先生と同様に勤務時間が長いことは間違いありません。部活についても、今、検討会を立ち上げています。

部活の中で輝く生徒もいるので、簡単になくせばいいというわけではないので、部活をどのようにすればいいのかということを検討していきます。中学校の先生は土日の部活があるために、非常に勤務時間が長いこともあり、部活のあり方を検討していくところです。

小学校と中学校の学力調査の結果についても、我々は二つ考えています。

一つは、新潟市の先生方が、子どもたちに本当の学力がつくようにと、授業を変えました。それが、小学校で徹底し始めて、今、中学校も取組が進んでいます。その徹底している差が少し出たのかなということ。

そしてもう一つは、中学校にいくと家庭学習をしなくなる傾向にあります。小学校のときはしていたのに、中学校にいくとガクンと減るのです。これは、中学校の先生が悪いわけではなくて、小学校のときの家庭学習のさせ方にも問題があるのではと考え、小学校と中学校の先生方が一緒になって検討をしています。

中学生の家庭学習を増やしたいことと、授業の進め方を徹底していきたい。この

二つで、中学校の学力がさらに向上していくことを期待しています。

自治協委員

越前小地域教育コーディネーター10年しています。角田コミ協にも所属し、地域性を活かし、全校で取り組んできた「海での塩作り体験」「巻漁港の壁画」「冬咲チューリップの栽培」など、コミ協と連携して継続ができています。「味噌作り体験」は、地域ボランティアがかかわる年中行事となり、秋のフェスティバルにはこの味噌で作った豚汁を楽しみにしている方も大勢いらっしゃいます。美味しい「浜っ子味噌」は子どもたちの自慢でもあります。

今年の春、嬉しいことがありました。高校生になる卒業生が、新聞に投稿をしてくれました。「越前小学校での体験活動は、そのときは分からなかったけれども、大勢の地域の方に支えられていたのだな。いつか自分も地域を支える活動に参加したいと思います」と。もっと長い文章でしたが、涙が出るほど嬉しかったのを憶えています。

地域は、特区としても注目され、移住者も増えています。移住条件の一つとして学童保育の要望があり、運営資金とスタッフの確保が地域課題となっています。ここ数年、越前小学校の卒業生の大学生がスタッフに加わっています。夏休みにスタッフとして来てくれたのが、先ほど紹介した活動を体験し立派な青年になったA君です。お金はバイト代のほうが魅力だけれど、学童スタッフのほうがやりがいがあると教えてくださいました。今年も新たにスタッフになってくれるB子さんとC子さんは、やり繰りして学童のために働くことを決めてくれました。C子さんは、「いとこのD君の学童スタッフの経験がその後の福祉施設に勤めるきっかけとなった」ことを聞いて、自分もやってみたいと思ったようです。地域に活動の場があれば、支援したいと思っている卒業生はまだ多いと思います。そういう場を提供できる企画も考えていきたいと思っています。

司会

子どものとき、地域の方とともに体験した活動を、今、地域住民の立場になってかかわってくださる若者の例を他の学校でも聞いています。次の世代に確実につながっている事例をお聞かせいただきました。

巻地区公民館長

西蒲区の公民館で実施しております事業を紹介いたします。

岩室地区では、「いわむろ歩け歩け大会」のほかに、伝統的な文化の継承や地域の絆づくりなどを目的とし、「ひろがれ響け盆踊りの輪と音頭」や「懐かしいあの頃のごつつお」、といった事業を実施しています。

西川地区では、地域のコミュニティ団体を育成する講座を年4回ほど実施しています。

潟東地区では、有名な「どろんこカップ」、地域の文化財のボランティアガイドを育成する講座として「まちのお宝ガイド育成講座」実施しています。

中之口地区では、地域の課題解決を担う人材の発掘と育成を目的に、「中之口大学地域活性化事業」実施しています。

巻地区公民館では、区全体の事業として、コミュニティコーディネーターの育成講座をやっています。昨年は区内から13名の方にご参加いただきました。20歳代も方2名。区全体での人材の発掘、育成を目的に、今年度も引き続き実施してい

ます。

また、岩室地区では、「少年の主張」、西川地区では「時代激祭り」、中之口地区では「運動会」など、地域コミュニティの活性化を支援する事業もお手伝いしています。これからも、公民館として積極的に取り組んでいきたいと思っています。

西川図書館
長

図書館では、よりよい地域づくりのために、西蒲区の文化や歴史についての役立つ資料を確実に集めて、みなさんに提供していきたいと思っています。公民館で活動される方、それから学校などにも提供していきたいと思っています。

それから、自分の考えを伝えることが苦手な子、苦手な大人、コミュニケーション能力が弱い方、そういう人たち、そういう子どもたちにとって、本を読む、読書というのはとても有効であると思っています。いろいろな世界のことが本を読むと分かる。豊かな心づくりなどにも読書が非常に役立っています。赤ちゃんから学校、いろいろなところで本を提供する役割を西蒲区の図書館は行っています。

10月からは今よりもさらに、さまざまところで団体貸出を行うことになりました。地域のみなさんに本を提供できるようなことをしていきたいと思っています。

自治協委員

西特別支援学校で地域教育コーディネーターをしています。西川図書館には開校当初からたいへんお世話になり、読み聞かせなどボランティアの方々から毎週入っていただいています。子どもたちは、本を読むことが大好きで、とても楽しみにしています。図書館とはいろいろなことで連携をさせてもらっています。

巻東中学校区に学校があるので、年1回、巻東中の3年生と中学部の交流会、巻南小の4年生と小学部の交流会もやっています。

日ごろ限られた中で生活することがとても多いので、地域の方に入っていていただくという刺激になります。子どもたちの態度が全然違います。集中力も普段よりも増します。パートナーシップ事業は、子どもたちがこれから社会に出ていくことを考えると、地域の方とかかわっていくということが、子どもたちにはとてもいい体験になっています。

教育委員

私は、子どもが小学校5年生のときから、学校のボランティアで、読み聞かせの活動をずっと継続しています。1年生から6年生まで顔を覚えてもらい、反応が変化するなど、小さな発見から、私たちが元気をいただいています。絵本の活動は、時間を共有したり、思い出づくりの立会人のように、先生方と温かく過ごしている様子で、逆に励まされております。

図書館の活動はいろいろあります。私も読書週間になりますと、北区から、豊富な資料が揃っている西川図書館に借りに来るともあります。図書館の中の本がすごく見やすく、借りた本がとても素敵で、本屋さんに頼んで買ったなどということもたくさんありました。

ネットワークシステムは、家庭にいながらどんな本がどこの図書館にあるのか、なかったとしたら、全国から本を取り寄せて借りることができる、そういうシステムになっていると思います。

ブックスタートは、1歳の子に3冊の絵本の中から保護者の人とともに絵本を選んでもらって、楽しんでもらうという事業です。

学校図書館の支援も図書館の大切な役目です。学校の図書館がどんどん素敵になっています。ウェルカム参観日や学校を訪問する際には、素敵な図書館だなどと思って見ております。司書の一生懸命な姿や、子どもたちが学習や読書に、生き生きと目を輝かせて利用している姿に励まされています。学校は、地域のみなさんやいろいろな方と連携しながら子どもたちを育てていく大事な機関です。社会教育機関とはつながりにくいのですが、私もお手伝いできればと考えています。

自治協委員

地域でどのように活かされて活用されているか、そういう生き生きした話を、意見交換でこれからも伺いたいと思います。

越前小の読み聞かせを始めたとき、ボランティアの方を探すのがたいへんで、同じ方ばかりに頼むようになっていました。

今年になって、新たに入ってくくださった方が、子どもたちに読み聞かせをした後、「このように読んでくれてよかったよ。」と子どもたちの感想をまとめたものをいただいて、すごく嬉しかったと言っていました。このようにして気持ちがつながって行って、いい関係ができました。一つの例ですが、1回学校に来て、「また来たい。また子どもたちに読んであげたい。」という気持ちになってくださいました。

そのようなことが広がっていくように、ボランティアの方に、また学校に運んでもらえるような雰囲気づくりをしていきたいと思っています。

司 会

とても素敵な事例で締めさせていただいて、ありがとうございました。

みなさまからの貴重なご意見や取組事例、誠にありがとうございました。

教育委員

お話を伺えなかった方々の笑顔の中に、地域みんなで子どもたちを育てていらっしゃるんだ、ということを感じました。これからもみなさんと一緒に考えていきましょうということを、ぜひ言葉としてお届けさせていただきたいと思います。今日はありがとうございました。

教育委員

3点、心に残ったこととお話いたします。

一つは、「違うことは素晴らしい。」という言葉であります。みんな違ってみんないい、そういうものの考え方を子どもたちに、そして私たち大人自身がしっかりと示す必要があるのかなと感じました。

2点目は、小学校、中学校、あるいは高校の先生たちは、子どもを送り出してそれで安心。しかし、その子どもたちが大人になったときどうなるか、どこまで考えているのだろうか。本当にこれは、心に突き刺さりました。これは私の反省も含めて、これから子どもたちを教育する先生方にもしっかりと伝えていきたいと思っています。

3点目であります。学校、PTA、地域が連携することが大事だと。そのためには、開かれた学校をもう一度よく考えてみる必要があるのではないかと思います。たいへんありがとうございました。

議 事

5 自治協議会会長挨拶

前田教育長、伊藤教育委員、田中教育委員をはじめ、教育委員会事務局のみなさんからもご出席いただき、誠にありがとうございました。前田教育長からは、今年度の教育委員会の施策について、ていねいな説明をいただきました。ありがとうございました。

西蒲区は、旧町村のころから、それぞれの地区で地域と学校の連携は強かったと自負しております。地域教育コーディネーターが学校に配置されてからは、一層その連携が進んでいると感じています。そういう声を実際に聞いております。地域教育コーディネーターのみなさんは、地域と連携するために相当な時間を費やしています。活動しやすいようにとのご配慮に、お礼を申し上げたいと思います。

新潟市教育ビジョンが掲げる学・社・民の融合による教育が、この西蒲区ではまさに具現していると考えております。今日は、それを確認することができました。一層の推進に向けて、活発な意見交換ができたものと感じております。

西蒲区自治協議会は、今年度から第6期となり半数以上の委員が交替しましたが、私たちの役割を自覚し、知恵を出し合い、協働を深め、西蒲区の宝であります子どもたちのためにこれからも頑張っていきたいと思っております。

それから、西蒲区教育支援センターの先生方も、地域に非常によく出てくれます。地域の人たちと交流があれば、ということで参加してくれます。地域の人たちも非常に喜んでいます。区長もそうですが、地域に行っているいろいろな情報を得ているようでございますので、その点は本当に素晴らしい先生方を派遣してくださいました。ありがとうございます。

みなさま、今日はたいへんありがとうございました。これからもよろしく願いいたします。どうもありがとうございました。

6 閉会